



昇段レポート



林 健 太 郎 弐段 (岐阜太田道場)

～2025 年 6 月 29 日 取得～

この度は、昇段審査の機会を与えて頂いた太田師範、また審査の際に組手の相手や応援をして頂いた道場生の皆様にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。

私が初段を取得したのは2017年12月でした。気がつけば8年近い月日が流れていました。初段を取得するまでは、週に3日以上様々な道場に稽古に行き空手中心の充実した毎日でした。2段を目指して今まで以上に稽古に励む気持ちで溢れておりましたが、急に仕事の都合で半年以上道場へ行けなくなり、さらに追い討ちをかけるように病気になり体調不良から稽古ができない日々が続きました。

空手に対する熱意は決して失ったわけではありませんでしたが、気持ちとは裏腹に稽古ができない悔しさと病気に対する不安が重なり精神的にもかなり辛い日々でした。体調が良い時に稽古に行けばまた悪くなり、持病の腰の痛みも重なって自主トレもできず、このままではとても2段を目指すのは無理だしそんなに甘い世界ではないと諦めかけておりました。ただ試合や審査で頑張っている道場生の方々を見ると、自分もこのままでは終われないという気持ちもありました。

太田師範から「時は待ってくれないから、ここぞと言う時は腹を括って勝負に行かなければ行けない」とのお言葉に後押しされ、体調面の不安はありましたが、このままでは絶対悔いが残ると思い6月の審査を受けることを決意しました。

受けると決断したからには、たとえ審査中に倒れても悔いだけは残したくありませんでしたので、審査までの数ヶ月間は自主トレや体調管理を今まで以上に徹底して、決して無理をせず今自分にできることをコツコツ続けていきました。

審査は決して褒められるような内容ではありませんでしたが、皆様から暖かい言葉や応援を頂きなんとか無事にやりきることができました。

稽古ができない悔しさ、病気への不安、諦めなど様々な感情で長い間苦しんだ分、自分なりに精一杯やりきった20人組手が終わった時には込み上げてくるものがありました。

2段のお許しを頂きましたが、決して自分ひとりの力では無く太田師範や道場生の皆様のおかげであることを決して忘れないようにしたいと思います。

ほとんど稽古にも行けず、黒帯の責任も果たせず、それでも見捨てず背中を押し続けて頂いた太田師範には本当に感謝しかありません。

今後は太田師範や道場生の皆様に少しでも恩返しができるように、また自分自身も悔いのないようにさらに上を目指して稽古に励みたいと思います。ありがとうございました。

押忍